



草原の中心にある木
これも偏形樹。まわりは木もまばら。偏形の方向は谷の方向に一致する。

壤ができにくい。できた土壌も乾燥して、草はともかく、樹木の成育には不適である。そのため、低地は草地のままなかなか木々が増えないと考えられる。

日当たりの良いところを好むツツジでさえ低地の中央（最も風が通り乾燥しやすいところ）には生えていない。

風化するカコウ岩—^{まさ}真砂

五十人山をつくっている岩石は、カコウ岩である。カコウ岩は一般には「^{みかげいし}御影石」と呼ばれ、現在の神

戸市御影産のものに名の由来がある。カコウ岩は大きな建築物や床、柱の建材として用いられている。豊臣秀吉は、大阪城の石垣に播磨（現在の兵庫県）産のものを用いたが、これは当時としても大変なぜいたくであった。

建材としてのカコウ岩は、丈夫で固く、永年の風雪に耐えるということで用いられ、実際そういうものは老朽しない。しかし、実はカコウ岩も風化し、はなはだしい場合は粉状の砂となる。これを「真砂」とよんでいる。



高尾中学校前のカコウ岩露頭
深部まで均一に風化している真砂。掘削は容易だが、ボロボロとくずれやすい。